

エマージング・カレンシー・債券ファンド (毎月分配型)

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第186期(決算日:2021年12月23日) 第187期(決算日:2022年1月24日) 第188期(決算日:2022年2月24日)
第189期(決算日:2022年3月23日) 第190期(決算日:2022年4月25日) 第191期(決算日:2022年5月23日)

作成対象期間(2021年11月25日～2022年5月23日)

第191期末(2022年5月23日)	
基準価額	3,598円
純資産総額	6,454百万円
第186期～第191期	
騰落率	2.1%
分配金(課税前)合計	60円

(注) 騰落率は分配金(課税前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、新生インベストメント・マネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

弊社ホームページの「基準価額一覧」からファンド名称を選択し、「ファンドの特色」ページにおいて運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「エマージング・カレンシー・債券ファンド(毎月分配型)」は、去る2022年5月23日に第191期の決算を行いました。

当ファンドは、主に投資信託証券に投資を行い、長期的に安定的な収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行ってまいりました。

ここに謹んで第186期～第191期の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



新生インベストメント・マネジメント

東京都中央区日本橋室町2-4-3

ホームページアドレス <http://www.shinsei-investment.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

投資信託部

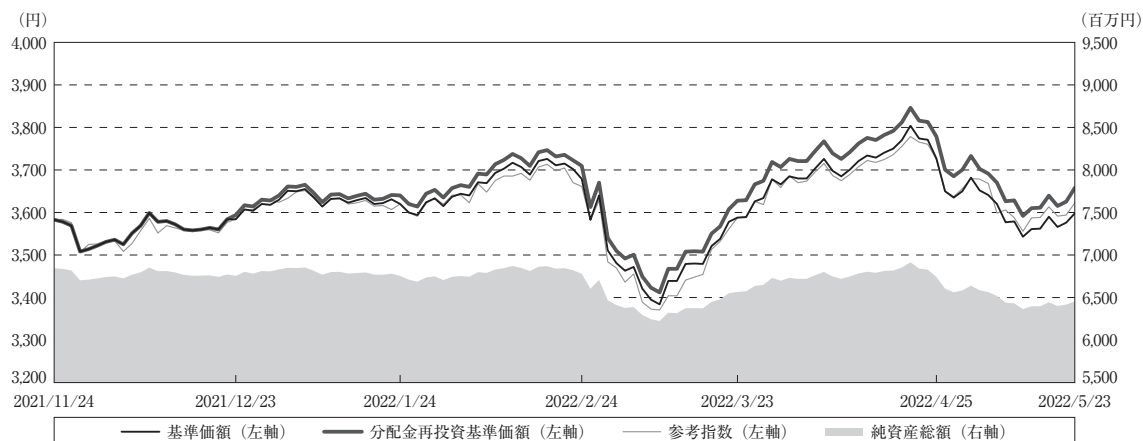
電話番号 03-6880-6448

受付時間 営業日の9:00～17:00

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2021年11月25日～2022年5月23日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（課税前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首（2021年11月24日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。なお、上記表示期間に収益分配が行われなかった場合、基準価額と分配金再投資基準価額の推移は同一のものとなります。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 参考指数についての説明は、P15の「当ファンドの参考指数について」をご参照ください。

○基準価額の主な変動要因

当作成期における当ファンドの基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

<プラス要因>

- ・当作成期首から2021年12月は、新型コロナウイルスの変異種であるオミクロン株の感染拡大は続いたものの、重症化リスクが低いことが示されてきたことによって、現地通貨建てエマージング債券は堅調に推移（利回りは低下）したこと。
- ・当作成期を通じて為替市場で円安・米ドル高の流れが続いたこと。

<マイナス要因>

- ・2022年2月下旬のロシアによるウクライナへの軍事侵攻が、エネルギーおよび商品価格の高止まりにつながり、世界的なインフレ懸念が募るなか、2月下旬から当作成期末にかけて現地通貨建てエマージング債券が下落（利回りは上昇）したこと。

1万口当たりの費用明細

（2021年11月25日～2022年5月23日）

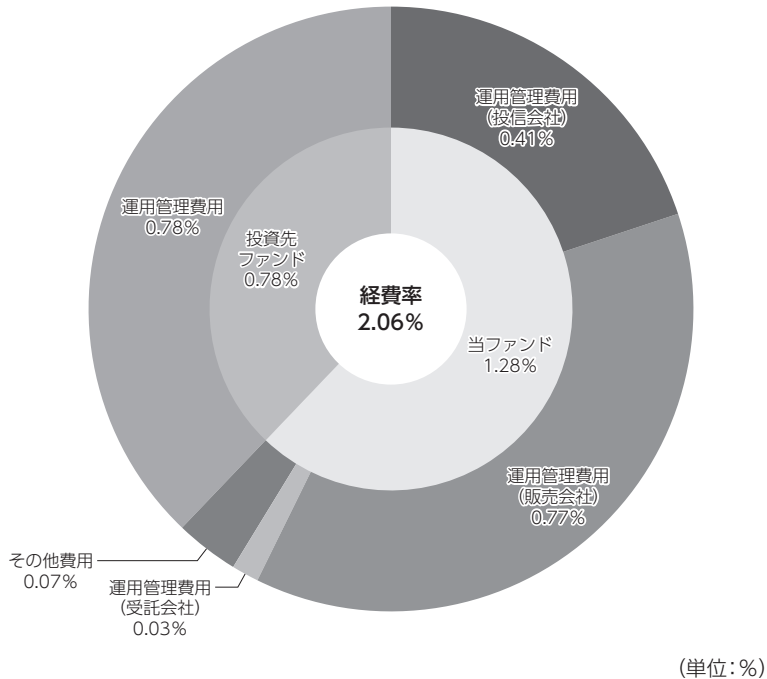
項 目	第186期～第191期		項目の概要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	22	0.597	(a) 信託報酬 = 作成期間の平均基準価額 × 信託報酬率
（投信会社）	（ 7 ）	（0.201）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（14）	（0.380）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	（ 1 ）	（0.016）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.035	(b) その他費用 = 作成期間のその他費用 ÷ 作成期間の平均受益権口数
（監査費用）	（ 0 ）	（0.005）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印 刷）	（ 1 ）	（0.030）	法定開示資料の印刷にかかる費用
合 計	23	0.632	
作成期間の平均基準価額は、3,622円です。			

- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。
- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は2.06%です。



経費率 (①+②)	2.06
①当ファンドの費用の比率	1.28
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.78

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

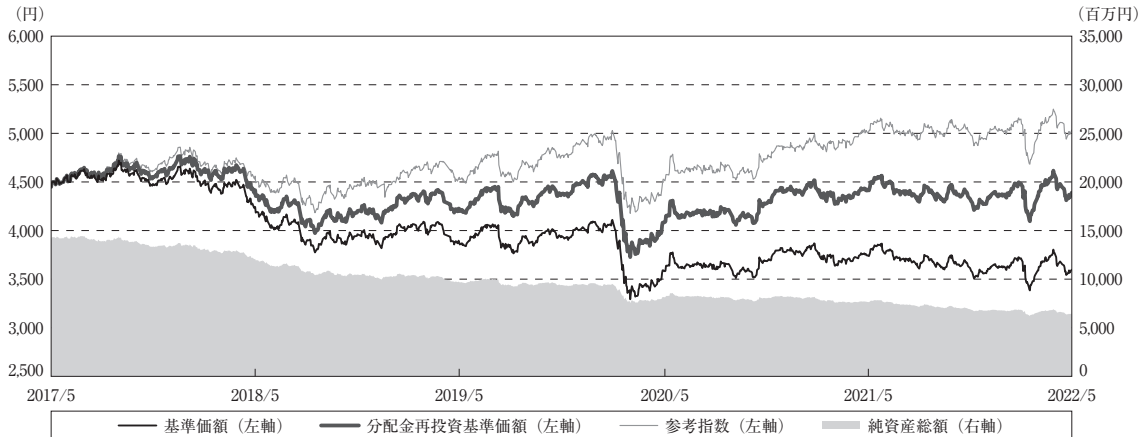
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2017年5月23日～2022年5月23日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（課税前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2017年5月23日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。なお、上記表示期間に収益分配が行われなかった場合、基準価額と分配金再投資基準価額の推移は同一のものとなります。

	2017年5月23日 決算日	2018年5月23日 決算日	2019年5月23日 決算日	2020年5月25日 決算日	2021年5月24日 決算日	2022年5月23日 決算日
基準価額 (円)	4,448	4,243	3,879	3,581	3,741	3,598
期間分配金合計(課税前) (円)	-	180	180	180	125	120
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	△ 0.7	△ 4.3	△ 3.2	8.1	△ 0.6
参考指数騰落率 (%)	-	2.5	△ 0.3	△ 0.8	10.9	0.6
純資産総額 (百万円)	14,155	12,087	9,706	8,136	7,642	6,454

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。参考指数についての説明は、P15の「当ファンドの参考指数について」をご参照ください。

投資環境

（2021年11月25日～2022年5月23日）

<現地通貨建てエマージング債券市場>

当作成期の現地通貨建てエマージング債券市場のインデックス（J P モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・ブロード・ダイバーシファイド（米ドル建て・為替ヘッジなし））は下落しました。

当作成期首から2021年12月は、オミクロン株の感染拡大は続いたものの、重症化リスクが低いことが示されてきたことによって、現地通貨建てエマージング債券は堅調に推移（利回りは低下）しました。2022年2月下旬に開始されたロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、エマージング資産全般の重石となりました。ロシアとウクライナ紛争の長期化は、エネルギーおよび商品価格の高止まりにつながり、世界的なインフレ懸念が募るなか、現地通貨建てエマージング債券は下落しました。先進国の主要中央銀行も高インフレに対抗するためにタカ派姿勢を強め、利上げサイクルに突入するなか、全般的に債券市場にとっては厳しい市場環境となりました。そのようななか、エマージング通貨の下落幅は相対的に抑えられており、背景として、多くの新興国は、先進国に先立って利上げを実施してきたことから、高キャリーおよびバリュエーション面での投資妙味が注目されたことや、一部の商品およびエネルギー輸出国の通貨が安定的に推移したことなどがありました。

<日本短期金融市場>

国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、日銀（日本銀行）による長短金利操作付き量的・質的金融緩和の影響等から、当作成期を通じて0%を下回る水準で推移し、当作成期末時点においては-0.1246%程度の水準となりました。

<為替相場>

当作成期において、為替市場では、円が対米ドルで12円57銭（+10.91%）の円安・米ドル高となりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2021年11月25日～2022年5月23日）

<エマージング・カレンシー・債券ファンド（毎月分配型）>

当ファンドでは、ルクセンブルグ籍米ドル建て外国投資法人「SIM ブルーベイ・エマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・ボンド・ファンド クラス L」（以下「投資先ファンド」といいます）投資証券と、主としてわが国の短期公社債および短期金融商品に投資する証券投資信託「SIM ショートターム・マザー・ファンド」受益証券を主要投資対象としています。

当作成期は、基本方針に従い、投資先ファンドの組入比率を高位に保つことによって実質的に現地通貨建てエマージング債券への投資を行うとともに、「SIM ショートターム・マザー・ファンド」受益証券を一部組み入れた運用を行いました。

<SIM ブルーベイ・エマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・ボンド・ファンド クラス L>

投資先ファンドでは、主に現地通貨建てのエマージング債券に投資を行い、グローバルな視点からのファンダメンタルズ分析・クレジットリスク分析に基づく分散投資を基本とし、アクティブに運用を行いました。

当作成期の投資先ファンドは、インデックスを上回るリターンとなりました。中南米の一部の国の債券の投資比率を高めていたことはマイナスに影響したものの、ロシアの投資比率を低くしていたことや東欧通貨の投資比率を低くしていたことなどがプラスに寄与しました。

<SIM ショートターム・マザー・ファンド>

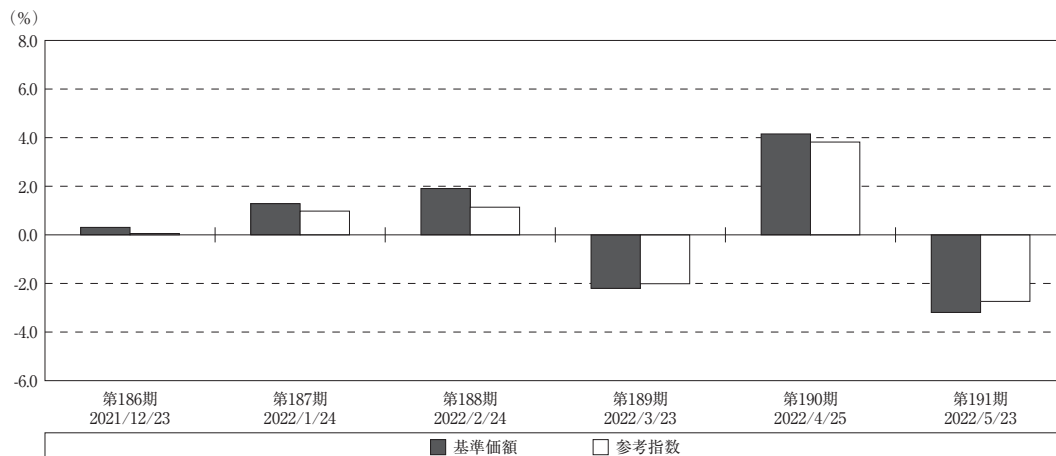
SIM ショートターム・マザー・ファンドでは、主として国庫短期証券等を組み入れましたが、当作成期を通じて、国庫短期証券等の利回りがマイナスとなっている状況が続きました。当作成期間において、基準価額に大きな変動はありませんでした。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2021年11月25日～2022年5月23日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率比）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（課税前）込みです。

(注) 参考指数についての説明は、P15の「当ファンドの参考指数について」をご参照ください。

分配金

（2021年11月25日～2022年5月23日）

収益分配金につきましては、収益分配方針に基づき、基準価額水準や市場動向等を勘案し、第186期から第191期は各期1万口当たり10円（課税前）、当作成期間合計で1万口当たり60円（課税前）の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行いました。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第186期	第187期	第188期	第189期	第190期	第191期
	2021年11月25日～ 2021年12月23日	2021年12月24日～ 2022年1月24日	2022年1月25日～ 2022年2月24日	2022年2月25日～ 2022年3月23日	2022年3月24日～ 2022年4月25日	2022年4月26日～ 2022年5月23日
当期分配金	10	10	10	10	10	10
（対基準価額比率）	0.278%	0.275%	0.271%	0.278%	0.268%	0.277%
当期の収益	10	10	10	10	10	9
当期の収益以外	-	-	-	-	-	0
翌期繰越分配対象額	971	975	979	997	999	998

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<エマージング・カレンシー・債券ファンド（毎月分配型）>

当ファンドでは、引き続き投資先ファンドへの投資を通じてエマージング諸国の債券等に投資し、長期的に安定的な収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

<SIM ブルーベイ・エマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・ボンド・ファンドクラスL>

金融市場は、2022年の年初から非常にボラティリティが高い状況となりましたが、なかでもエマージング市場は、大幅な下落に見舞われました。その背景には、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻によってエネルギーや農産物などの商品価格が大幅に上昇した影響や、さらにこのインフレ圧力が先進国での大幅な金利上昇につながったことが挙げられます。また、中国の不動産セクターは、信用収縮とゼロ・コロナ政策の両方における果敢な政策によって、大幅な下落に見舞われました。中国での新型コロナウイルス感染拡大防止のロックダウン（都市封鎖）も延長される可能性が高く、中国の経済成長に多大な影響を及ぼすと予想されます。しかし、今後について考えると、ファンダメンタルズとバリュエーションの観点から、現地通貨建てエマージング債券には、リスク・リターンの観点で投資妙味のある可能性があると考えています。大きな売り圧力は急速な資金流出が背景にあり、このことが投資家のリスクセンチメントの悪化にもつながりました。まだ不透明感が残るものの、米国の金利の上昇はピークに近づいている可能性が高く、現地通貨建てエマージング債券は、今後はリターンの回復が期待出来る水準にあると考えています。

<SIM ショートターム・マザー・ファンド>

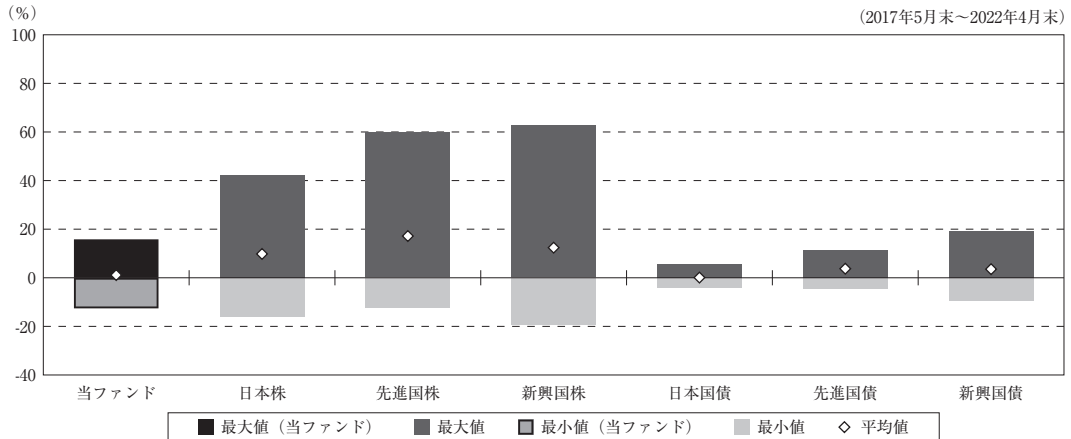
今後もしばらくの間、日銀は、2%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、金融緩和を継続していくものと想定しており、引き続き低水準の金利環境が続くとみています。当ファンドでは、引き続き当初の運用方針に基づき、国庫短期証券等に投資する方針です。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／債券	
信 託 期 間	原則として無期限です。 クローズド期間はありません。	
運 用 方 針	当ファンドは、主に投資信託証券に投資を行い、長期的に安定的な収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主 要 投 資 対 象	ルクセンブルグ籍米ドル建て外国投資法人 「SIM ブルーベイ・エマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・ボンド・ファンドクラスL」投資証券	主として現地通貨建てのエマージング債券に投資します。
	証券投資信託 「SIM ショートターム・マザー・ファンド」受益証券	主としてわが国の短期公社債および短期金融商品等に投資します。
運 用 方 法	<p>①ルクセンブルグ籍オープン・エンド型の米ドル建て外国投資法人である「SIM ブルーベイ・エマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・ボンド・ファンドクラスL」投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）及び証券投資信託である「SIM ショートターム・マザー・ファンド」受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）を主な投資対象（以下、「投資対象ファンド」といいます。）とします。投資先ファンドへの投資を通じて、エマージング諸国の債券等に投資し、長期的に安定的な収益の確保と投資信託財産の成長をめざして運用を行います。</p> <p>②投資信託証券への投資は、原則として、高位を維持することを基本とします。</p> <p>③外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>④資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>	
分 配 方 針	<p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②分配対象額は、委託者が決定するものとし、原則として、安定分配を継続的に行うことを目指します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。</p> <p>③収益分配に充てずに投資信託財産内に留保した利益（無分配期の利益を含みます。）については、運用の基本方針に基づき運用を行います。</p>	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	15.8	42.1	59.8	62.7	5.4	11.4	19.3
最小値	△ 12.6	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 4.0	△ 4.5	△ 9.4
平均値	1.1	9.8	17.2	12.4	0.1	3.7	3.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2017年5月から2022年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P15の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2022年5月23日現在）

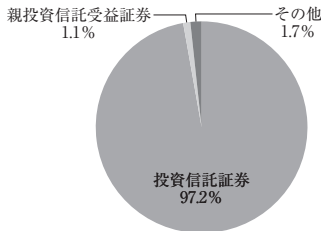
○組入上位ファンド

銘柄名	第191期末
	%
SIM ブルーベイ・エマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・ボンド・ファンド クラス L	97.2
SIM ショートターム・マザー・ファンド	1.1
組入銘柄数	2銘柄

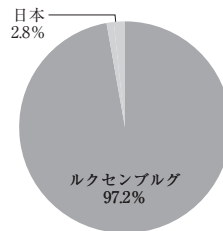
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

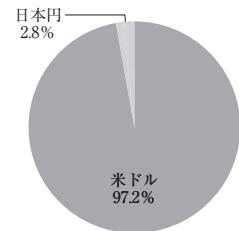
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）四捨五入の関係上合計が100%にならない場合もあります。

純資産等

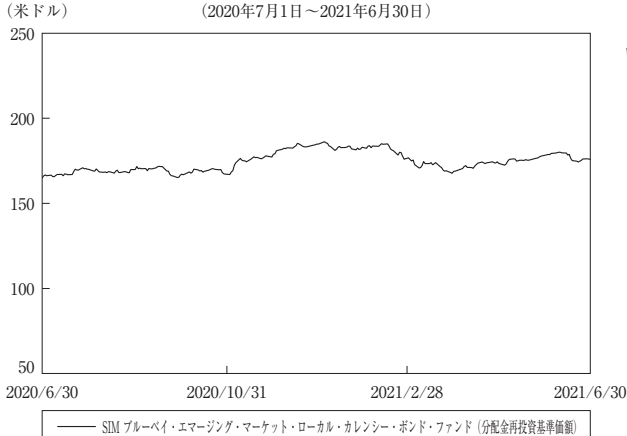
項目	第186期末	第187期末	第188期末	第189期末	第190期末	第191期末
	2021年12月23日	2022年1月24日	2022年2月24日	2022年3月23日	2022年4月25日	2022年5月23日
純資産総額	6,754,416,391円	6,754,683,404円	6,778,124,012円	6,567,063,424円	6,741,410,122円	6,454,495,641円
受益権総口数	18,847,117,958口	18,658,809,588口	18,424,157,472口	18,300,442,438口	18,088,531,787口	17,939,828,309口
1万円当たり基準価額	3,584円	3,620円	3,679円	3,588円	3,727円	3,598円

* 当作成期間（第186期～第191期）中における追加設定元本額は118,467,457円、同解約元本額は1,282,340,044円です。

組入上位ファンドの概要

SIM ブルーベイ・エマージング・マーケット・ローカル・カレンシー・ボンド・ファンド クラス L

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2020年7月1日～2021年6月30日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載していません。

(注) 当ファンドの当作成期末日において投資先ファンドについて直近の計算期間の基準価額の推移です。(2020年7月1日から2021年6月30日)

【組入上位10銘柄】

(2021年6月30日現在)

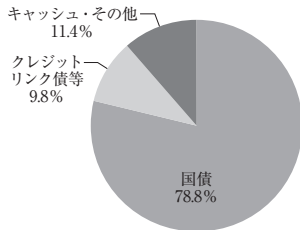
	銘柄名	利率 %	償還年月日	国名	建通貨	額面金額	評価額 米ドル	比率 %
1	CHINA DEVELOPMENT BANK /CNY/ REGD SER 1715	4.24	2027/08/24	中国	中国人民币元	24,110,000.00	3,899,122.58	5.81
2	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA /ZAR/ REGD SER 2032	8.25	2032/03/31	南アフリカ	南アフリカ・ランド	58,044,281.00	3,712,457.94	5.53
3	INDONESIA GOVERNMENT /IDR/ REGD SER FR68	8.38	2034/03/15	インドネシア	インドネシア・ルピア	32,036,000,000.00	2,446,887.59	3.65
4	MEX BONOS DESARR FIX RT /MXN/ REGD SER M 20	7.50	2027/06/03	メキシコ	メキシコ・ペソ	46,130,000.00	2,417,506.94	3.60
5	ICBC STANDARD BANK PLC /EGP/ REGD ZCP EMTN	0.00	2021/07/01	英国	エジプト・ポンド	36,393,119.00	2,318,771.52	3.46
6	CHINA DEVELOPMENT BANK /CNY/ REGD SER 1905	3.48	2029/01/08	中国	中国人民币元	15,000,000.00	2,318,467.99	3.46
7	MALAYSIA GOVERNMENT /MYR/ REGD SER 0219	3.89	2029/08/15	マレーシア	マレーシア・リンギット	8,086,000.00	2,048,037.82	3.05
8	REPUBLIC OF SOUTH AFRICA /ZAR/ REGD SER 2037	8.50	2037/01/31	南アフリカ	南アフリカ・ランド	32,779,670.00	1,976,496.50	2.95
9	HUNGARY GOVERNMENT BOND /HUF/ REGD SER 27/A	3.00	2027/10/27	ハンガリー	ハンガリー・フォリント	530,630,000.00	1,875,219.93	2.80
10	TITULOS DE TESORERIA /COP/ REGD SER B	6.00	2028/04/28	コロンビア	コロンビア・ペソ	6,484,400,000.00	1,670,288.71	2.49
組入銘柄数						52銘柄		

(注) 比率は、当該投資信託証券の純資産総額に対する割合です。

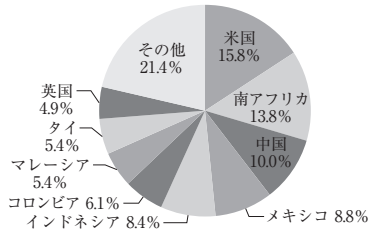
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国名につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

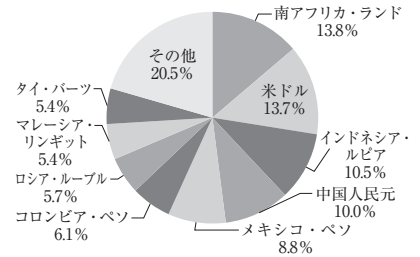
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

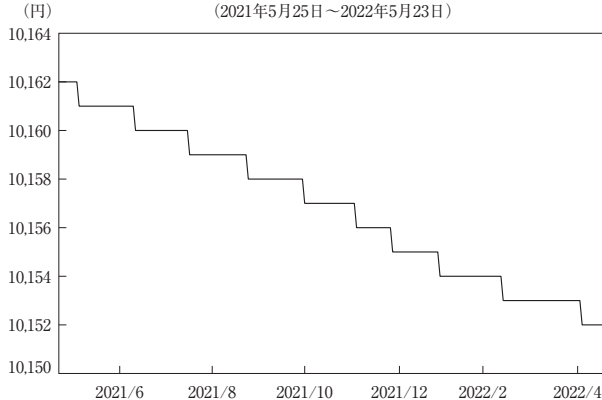


- (注) 比率は、資産別配分については当該投資信託証券の純資産総額に対する割合（派生商品の損益を含む）、国別配分および通貨別配分についてはポートフォリオ（時価評価額合計）に対する割合です。
- (注) 資産別配分の「その他」には、スワップ取引や為替先渡取引の損益が含まれております。
- (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
- (注) 四捨五入の関係上合計が100%にならない場合もあります。

SIM ショートターム・マザー・ファンド

【基準価額の推移】

(2021年5月25日～2022年5月23日)



該当事項はございません。

【1万口当たりの費用明細】

(2021年5月25日～2022年5月23日)

【組入上位10銘柄】

(2022年5月23日現在)

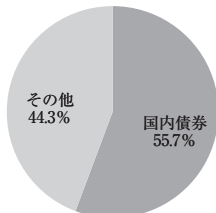
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率 %
1	第1063回国庫短期証券	国債証券	日本円	日本	55.7
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-
組入銘柄数			1銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

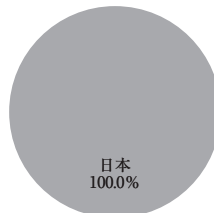
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

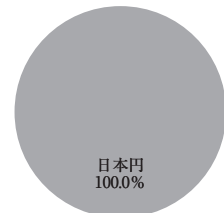
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 四捨五入の関係上合計が100%にならない場合もあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

＜当ファンドの参考指数について＞

参考指数（JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・ブロード・ダイバーシファイド（円換算ベース））は、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・ブロード・ダイバーシファイド（米ドル建て：為替ヘッジなし）をもとに委託者が独自に算出したもので、当初設定時を10,000として指数化しております。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。